

平成 25 年 3 月 17 日発行

会 報

第 4 5 号

社団法人

岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会

《写真コーナー》



平成 24 年度総会(4 月 29 日)



村上直人氏黄綬褒章受章祝賀会



第1回生涯研修会(6 月 17 日)



常務理事会(8 月5日)



ハーフマラソンボランティア(9月23日)



三団体学術研修会(9月30日)



健康づくり教室(10月14日)



第2回生涯研修会(10月28日)

巻頭言

社団法人
岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会
理事長 佐々木 実



早いもので、あの東日本大震災から1年9ヶ月が過ぎました。が、被災地の復興は遅々として進んでいないようです。瓦礫の山があちこちに点在し、家を失った人たちは仮設住宅暮らしが続き、しかも今年は記録的猛暑と平年より寒い冬がその人たちを苦しめています。

当会でも、被災した沿岸部の会員は、皆さん壊れた家を修理し、あるいは仮設住宅で、あるいは別の場所で業を再開され頑張っています。彼らの心労は察するに余りありますが、県師会としても出来る限り応援して行きたいと思っております。

そんな中、年末には衆院選挙が行われ政権が交代しました。新しい内閣には一日も早い震災復興と、瓦礫のごとく山積みされている国内外の問題解決に命をかけて取り組んで欲しいものです。

さて、業界の1年を振り返ってみますと、無免許者の横行と保険取り扱いの厳しさがとりわけ目立った年でした。それら解決のために開かれた国会議員を交えての全国決起集会の成果を大いに期待したいところです。

岩手県師会においては、一般法人移行に向けての準備に追われた年でもありました。春の総会では定款・運営規定の改正が承認され、その後、細則等も作られ、12月10日には電子申請に漕ぎ着けることが出来ました。順調に行けば来年度からは「一般社団法人岩手県鍼灸マッサージ師会」としてスタートする予定です。しかしながら会計の収支計算書の見直しなど、新しい法人に向けてまだまだ整備しなければならないことが沢山あります。

今後とも会員の皆様のご協力を心よりお願いし巻頭のご挨拶と致します。

目 次

巻頭言	理事長 佐々木実	1
目 次		2
平成 24 年度活動報告		
総務部報告	総務部 古舘吉弘	3
理事長会務報告	理事長 佐々木実	7
学術部報告	学術部長 佐藤 明	9
事業部報告	事業部長 伊藤庸一	12
保険部報告	保険部長 袖林広正法	13
組織強化部報告 (1)	組織強化部長 佐藤 茂	15
(2)	常務理事 袖林広正法	15
スポーツセラピー担当報告	スポーツセラピー担当 佐藤 茂	16
介護予防事業推進委員会報告	介護予防事業推進委員長 古水健吾	18
震災対策委員会報告	震災対策委員長 佐々木 実	21
東鍼連宮城大会報告	学術部長 佐藤 明	22
東鍼連宮城大会学術発表論文	常務理事 佐藤 茂	23
東洋療法推進大会 in 静岡報告	理事長 佐々木実	25
各師会活動報告及び会員動向		
二戸師会	古舘吉弘	26
盛岡師会	中渡智彦	27
奥州師会	小野田サヨ子	28
一関師会	舘下正則	28
大船渡師会	古水健吾	29
遠野師会	朝橋正美	29
宮古師会	上舘 宏	29
編集後記	広報部長 松下優子	30
奥 付		30
広告 有限会社ヤマキン医療器		
広告 株式会社カナケン		

平成 24 年度活動報告

総務部報告

総務部長 古館吉弘

(1) 平成 24 年度庶務日誌報告 (平成 25 年 1 月 31 日現在)

平成 24 年

- 4 月 1 日 盛岡医療福祉専門学校鍼灸学科入学式に佐々木理事長出席 (ホテル東日本)
- 4 月 11 日 県民法人税納入
- 4 月 15 日 第 1 回執行部会議並びに第 1 回監査会開催 (マッサージセンター)
- 4 月 29 日 第 71 回県師会通常総会並びに村上直人氏黄綬褒章受章祝賀会開催 (労働福祉会館)
- 5 月 13 日 第 4 回いわてアスレティックトレーナー養成セミナーに、佐藤茂スポーツセラピー担当が出席
- 5 月 17 日 盛岡市市民税課より、法人市民税平成 23 年度分免除通知届く
- 5 月 20 日 介護予防委員会会議並びに第 3 回勉強会開催、参加者 8 名 (アイーナ)
- 5 月 20 日 養護老人ホーム福光園ボランティアマッサージ実施、参加 11 名 (一関市)
- 5 月 25 日 法務局に平成 24 年度法人登記変更届を提出し、28 日に受理され、登記証明書発行される
- 5 月 27～28 日 全鍼代議員総会並びに第 3 回東鍼連理事会に佐々木理事長出席 (東京)
- 6 月 1 日 県に平成 23 年度事業報告並びに決算報告、平成 24 年度事業計画、予算計画書等関係書類を提出し受理される
- 6 月 3 日 第 2 回執行部会議並びに工藤税理士を招き、法人移行申請までの手続きの流れと会計基準規定について説明を受ける。午後 1 時～5 時 (アイーナ 5 階ミーティングルーム) 同日、全国保険部長会議に袖林保険部長が出席 (東京)
- 6 月 10 日 第 5 回いわてアスレティックトレーナー養成セミナーに、佐藤茂スポーツセラピー担当が出席
- 6 月 16 日 山形県師会創立 60 周年記念式典にお祝いメッセージを送る
- 6 月 17 日 第 1 回生涯研修会開催、参加者 31 名 (アイーナ)
- 7 月 1 日～2 日 第 35 回東北鍼灸マッサージ学術大会宮城大会が開催され、会員 20 名が参加 (秋保温泉緑水亭)
- 7 月 14 日 新法人設立委員会会議開催。工藤税理士を招き電子申請の内容と会計などの中身について打ち合わせ。午後 1 時～5 時 (アイーナ)
- 7 月 14 日 第 6 回いわてアスレティックトレーナー養成セミナーに、佐藤茂スポーツセラピー担当が出席
- 7 月 15 日～16 日 地域健康づくり指導者研修会 (前期) に、古水健吾介護予防委員長が出席 (東京 新宿区立産業会館)
- 7 月 20 日 岩手県視覚障害者福祉協会、第 10 回福祉大会に祝電を送る

- 7月29日 養護老人ホーム関生園ボランティアマッサージ実施、参加9名（一関市）
- 8月5日 午前10時から午後1時、第1回常務理事会開催。会議に先だち工藤税理士を招き新法人設立委員会会議を開催（労福会館）
- 8月26日 介護予防委員会第4回勉強会開催、参加者4名（アイーナ）
- 9月1日～2日 東鍼連福島交流会に、佐藤茂組織強化部長と袖林広正法常務理事が参加（会津東山温泉）
- 9月1日 介護予防委員会、先進地視察研修実施、参加5名（一関市藤沢町、デイサービスゆうゆう）
- 9月2日 養護老人ホーム富美岡荘ボランティアマッサージ実施、参加6名（大船渡市）
- 9月10日 NTT東日本仙台に、岩手県内版電話帳広告の無免許者などのチェック済み資料を送付
- 9月14日 県からの指導監査並びに第3回執行部会議開催。午後1時半～4時（アイーナ）
- 9月18日 佐々木理事長と工藤税理士とが県医療推進課を訪れ、法人移行の指導を受ける
- 9月23日 第31回一関国際ハーフマラソン大会において、ボランティアマッサージ実施、参加13名（一関市総合体育館）
- 9月30日 三団体学術研修会開催、参加者34名（視覚支援学校）終了後、介護予防委員会第5回勉強会開催、参加6名（マッサージセンター）
- 10月14～15日 第10回東洋療法推進大会 in 静岡に、佐々木理事長出席（熱海）
- 10月14日 養護老人ホーム寿水荘ボランティアマッサージ実施、参加7名（奥州市）
- 10月14日 高松四丁目町内会祭りにおいて、ボランティアマッサージ実施、参加2名。その後、同町内会健康づくり教室開催、介護予防委員4名参加
- 10月28日 第2回生涯研修会開催、参加者28名。同日、昼休みに無免許対策委員会開催（労福会館）
- 11月7日 養護老人ホームわくわく荘ボランティアマッサージ実施、参加4名（二戸市）
- 11月11日 全国師会長会議に、佐々木理事長出席（東京）
- 11月11日 西厨川老人福祉センターボランティアマッサージ実施、参加7名（盛岡市）
- 11月18日 東鍼連師会長会議に、佐々木理事長出席（仙台）
- 11月23日 全鍼師会の要請により、選挙管理委員会へ正会員の名簿を作成し送る
- 11月24日～25日 東鍼連保険部長会議に袖林保険部長出席（仙台）
- 12月2日 介護予防委員会第6回勉強会開催、参加6名
- 12月8日 第4回執行部会議並びに新法人設立委員会会議を工藤税理士を招き開催（アイーナ）
- 12月10日 一般社団法人移行に関する電子申請を行う（工藤税理士事務所）

平成25年

- 1月 5日 奥州師会の今野進氏死去に際し香典と弔電を送る
- 1月 9日 ニチイ学館と被災地釜石での鍼灸マッサージボランティアに関する契約書を交わす
- 1月12日 第2回常務理事会開催（奥州市水沢グランドホテル）
- 1月16日 第7回いわてアスレティックトレーナー養成セミナーに佐藤茂スポーツセラピー担当が出席
- 1月20日 被災地釜石市「小川地区高齢者サポートセンター」において鍼灸マッサージボランティア開始（月2回）
- 2月 3日 視覚障がい者関連団体意見交歓会に佐々木理事長出席予定（視福会館）
- 2月17日 第3回生涯研修会開催予定（労福会館）
- 2月17日 第8回いわてアスレティックトレーナー養成セミナーに佐藤茂スポーツセラピー担当出席予定
- 2月24日 第5回執行部会議開催予定（マッサージセンター）
- 2月24日～25日 地域健康づくり指導者研修会（後期）に、古水介護予防事業推進委員長出席予定（東京 新宿）
- 3月16日 盛岡医療福祉専門学校鍼灸学科卒業式に、佐々木理事長出席予定（ホテル東日本）
- 3月17日 平成24年度通常理事会開催予定（労福会館）

(2) 県師会情報メール版発行

平成24年12月31日現在、201号～270号まで70回発行されております。

(3) 平成24年度会員動向（平成24年12月31日現在）

項目	月 日	師会名	氏 名
入会者	4月	盛岡	三浦 百代
	5月	盛岡	長内 義行
退会者	4月	盛岡	佐藤 孝祐

師会異動

4月 盛岡師会 佐藤 明 （大船渡師会から異動）

住所変更

6月 大船渡師会 戸羽国博 （陸前高田市内異動）

11月 大船渡師会 菅原利美 （陸前高田市内異動）

会員数（平成24年12月31日現在）

全鍼師会会員 103名（正会員88名、準会員15名）

県師会会員 103名（一般会員97名、非単独5名、高齢1名）

(4) 第71回通常総会報告

今回の総会は、一般社団法人に向けて、定款並びに運営規定の変更について、という議題が中心となりました。

まず、総会の前に各資料の配付などを行い、引き続き資格確認を行い、出席者 32 名、委任状 50 名、欠席 20 名で、4 月 29 日現在の会員総数 102 名となり、よって、過半数を超えているので総会が成立することを報告し、伊藤庸一副理事長の開会のことばで総会が始まりました。

その後、理事長の挨拶、顧問挨拶と続き議長、議事録記録人、議事録署名人について会員に諮ったところ一任ということで、議長には大船渡師会の古水健吾氏を指名しました。議事録記録人には盛岡師会の井口力氏、議事録署名人には盛岡師会の松下優子氏、奥州師会の千田節雄氏を委嘱しました。その後、進行役を議長と代わり議事に入りました。

1 号議案の理事長会務報告では、昨年度の震災でのボランティアマッサージでは、皆さんの協力により無事終了できたことに感謝の言葉がありました。また、全国からさまざまな物資をいただき、それらを被災地域に届けたりしたことが報告されました。

また、今、業界では二つの大きな節目を迎えています。その一つは、新法人移行ということですが、全鍼師会は平成 23 年 4 月から公益社団法人となり、それについても細かく説明と報告がありました。もう一つが、全鍼師会が行動を起こし、政治家を巻き込み、抱える諸問題を打開しようとする活動です。この二つのことに力を入れていこうとしています。

次に、東鍼連大会が宮城で昨年行われる予定だったものが、震災により中止となり、今年 7 月 1 日～2 日に仙台市秋保温泉で開催されることとなりました。

次に、盛岡鍼灸専門学校との交流が深まってきていますが、今年の卒業生から優秀生表彰をしてもらうように全鍼に申し入れ認められました。早速 23 年度卒業生を表彰したことが報告されました。

次に、あはき制度を守る緊急決起集会が 2 月 22 日に、東京のルポール麹町において国会議員 276 名と各都道府県の政治連盟会員が集まり開かれました。全鍼師会では、今までは自民党だけに陳情したりしてきましたが、やはり超党派の議員に対して訴えていく方が良いのではということになりました。

内容につきましては、無免許者を何とかしてほしい、保険の取り扱いを柔整並にしてほしい、介護保険に我々鍼灸師も参入できる環境にしてほしいというものです。

議員らは特に、無免許問題と保険取り扱い問題については、かなり関心が高かったようでした。

その他、今年度中には一般社団法人として認可申請実務を進め、認可を得たいとの説明がありました。

2 号議案の各部報告と 3 号議案の会計計算報告は、時間の短縮のために要点だけを述べて、後は資料を参照してほしいという報告となりました。続いて、監査報告があり議長が採決を取った結果承認されました。

次に、4 号議案の定款変更と運営規定の変更については、佐々木理事長から改正点だけを説明してもらいました。これは、出席者にはすでに資料を渡しておいたために皆さんが読んできたことで短縮ができました。会員からは、いくつか質問があったものの採決の結果承認されました。

最後に、役員改選が行われ、現在の役員と理事が承認されました。

役員は、次の方々になります。

理事長 佐々木実、副理事長 伊藤庸一、副理事長 佐藤明、財務部長 山本英典、総務部長 古舘吉弘、庶務部長 井口力、事業部長 伊藤庸一、学術部長 佐藤明、保険部長 袖林広正法、組織強化部長 佐藤茂、広報部長 松下優子、無免許対策委員会委員長 舘下正則、介護予防事業推進委員会委員長 古水健吾、震災対策委員会委員長 佐々木実。

理事 佐々木金男、千田節雄、舘下正則、古水健吾、朝橋正美、上舘宏。

監事 千葉謙一（一関師会）、中渡智彦（盛岡師会）。

顧問 下佐征昭（前理事長）、神崎浩之（岩手県議会議員）。

以上、総会は、予定していた時間通りに終わり、これも議事進行にご協力いただいたおかげでした。

その後、議長が降壇し、佐藤明副理事長の閉会のことばですべて終了しました。

(5) 村上直人氏黄綬褒章受章祝賀会報告

総会終了後、午後1時から、盛岡師会の村上直人さんの黄綬褒章受賞祝賀会が場所を変えて行われました。

祝賀会は県師会が主催し、県視覚障がい者福祉協会、視覚支援学校同窓会、視友協の各団体が協賛しました。来賓として、岩手県議会議員神崎浩之様と前盛岡市会議員千葉健一様、さらに、視福協会の顧問として桜井政太郎様、小島伸公様のご臨席を賜り、合計58名の出席により盛大に行われました。

総合司会は、県師会総務部長の古舘吉弘が行い、次第に沿って進められました。

各団体長よりお祝いのことばをいただいたり、来賓の二人の方々からもお祝いのことばをいただき、その後、祝電披露では、多くの方々からメッセージをいただきました。

下佐征昭県師会顧問の乾杯の音頭で和やかに懇談が行われ、テーブルスピーチでは視福協会の桜井政太郎、小島伸公両顧問からもお祝いのことばをいただきました。

最後に、受章者の村上直人さんより謝辞の挨拶が行われました。また、司会者の機転で奥様にもご挨拶を頂くこととなり、内助の功を知ることが出来ました。

祝賀会は山本英典理事の閉会の言葉でお開きとなりました。会員の皆様には、総会と祝賀会にご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

理事長会務報告

理事長 佐々木 実

(1) 平成24年度全鍼師会定時総会報告

5月27日と28日に東京のホテルルポールで行われました全鍼総会、全鍼政治連盟総会、全鍼協同組合総代会に出席して参りましたので、その内容を報告致します。

まず、全鍼総会ですが、事業報告・決算報告、事業計画・予算等は執行部提出通りに承認されました。その他の質疑を簡単に紹介します。

宮城 全鍼会員の減少の原因は何と考えているか？

会長 経済的理由、公益に偏って共益事業が少なくなるのではという懸念、進まない無免許問題の三つと考えている。

宮城 無免許取締りの方策はないのか？

法制局 2月22日の決起集会来、国会議員と交渉が出来るようになってきている。各師会の無免許広告を全鍼に集め国会議員に見てもらい協議していく予定だ。

事業局 スポーツセラピー講習会にはまだ余裕があるので参加希望者は申し込んでほしい。岩手で震災特例法でPTが被災者の家を訪問してマッサージを行っても良いということになっている。これは訪問リハビリテーション構想の一步ではないかと尋ねたが、「それとはまったく関係ない。一時的な特例である」との答えだった。注意して見ていきたい。

保険局 あはきの療養費改定は、秋口あたりに延期された。伸び率ゼロと出ているが、それを何とか少しでも増やすように交渉している。

奈良 機能訓練指導員に鍼灸師を加える運動をしているが、その訳を説明してほしい。

執行部 介護保険法の93条に「日常生活を営むのに必要な訓練指導をする能力を有する者」とある。そして看護師・柔整師・マッサージ師・言語訓練師等が認められている。その法から解釈すると「鍼灸師はそれにふさわしくないのか」ということになる。指導の能力がある者がなれるとしているので、鍼灸師もそれに加えてもらう運動をしている。

岐阜 あはき法改正のための検討委員会を全鍼師会内に設けてほしい。そこでマッサージの定義をはっきりさせてほしい。

法制局 考えて行きたい。

福島 被災会員の一時休会を認めてほしい。福島会員の中には放射能からの非難で未だ仕事が出来ない人がいる。その人たちは会を辞めるのではなく、再開出来るまで休会という寛大な処置を望む。

財務局 定款には休会という項はない。定款を変えらるとなると大変なので、それ以外の方法で対処出来るよう考えていきたい。

選挙管理委員会 各師会の選管任期が11月迄なので、変更届を各県師会で行ってほしい。再任は妨げない。

(2) 政治連盟総会

事業報告と計画・決算と予算は満場一致で承認されました。ここでは活動しようにも金がない。国会議員との交渉も出来るようになってきたので、なおさら運動資金が必要。連盟会員が1,100人位しかいない。これは全会員の10分の1だ。今年は2千人を目指したい。決起集会の効果も出て来ており、是非政治連盟へ加入してほしい。1年間で1千円振り込むだけなので協力をお願いしたいとのことでした。

(3) 協同組合総代会

ここでは2年連続で赤字を出してしまった。売り上げが1,500万あれば楽に運営していけるのだが、今年度は1,088万だった。一昨年よりは伸びているので頑張っていく、会員の皆さんも協同組合から品物を買ってほしいとのことでした。

(4) 東鍼連平成23年度理事会報告

5月27日夜開催され、宮城大会の話がほとんどでした。県師会情報で紹介したように「美容鍼灸協会」から震災義援金73万4千円を頂いたものを、今回の宮城大会の参加者補助金としましたが、来年の福島大会でもその方向で使うことが承認されました。

(5) 東鍼連平成 24 年度理事会報告

11月18日(日)、仙台の「福祉プラザ」で行われた理事会での内容を記します。
まず、東鍼連宮城大会の総括です。

- ・参加者は会員138名・一般を含めると200名を超える人数であった。
これは鍼灸美容協会の義援金を活用して3千円の補助を出したためと思われる。
- ・安保先生の講演も好評であった。
- ・参加費を前もって振込みにしたのは受付の混雑を避けられよかった。
等々が上げられました。

なお、来年の東洋療法推進大会 in 新潟でも安保先生の講演の予定なそうです。

各県提出議題の処理としては、7月の第1回代議員会で出された青森の「按摩マッサージ指圧師は整体やカイロの広告も出来るよう働きかけてもらう」、宮城の「統合医療の情報提供を全鍼に望む」の二つは、来年5月の全鍼代議員会に東鍼連ブロックとして提出することを確認しました。

東鍼連保険部で自賠責保険の統一書式を作ったので、理事会で承認してほしいという件については、「この書式を会員にすみやかに説明・普及させること」という条件を付して全会一致で承認しました。これにより、岩手県師会でも2月の研修会にはその説明会を設けたいと思います。

各県の法人移行状況では、山形が一般にすでに移行。それ以外の県は、来年の4月1日に、福島が公益・その他は一般への移行を目指し進めているとのことでした。

来年の東鍼連福島大会については、7月7日(日)・8日(月)穴原温泉「吉川屋」で行い、参加費は1万7千円。ただし鍼灸美容協会からの義援金がまだ残っているので、一人2千円くらいの助成金は出せると思うとのことでした。

また、臨床発表のテーマは「リウマチ」。保険取り扱い疾患はこれで一周したわけですが、もう一周することとなりました。査読委員会も今後も続けて行くことで決定。

- ・福島大会のテーマは「みちのく福島の地に東洋療法の絆さらに深く強く」。
- ・1日目の講演は、癌総合研究センター松江寛人先生、演題「放射線被爆による癌の恐怖」
- ・二日目は、福島県師会副会長平栗先生による「リフレクション」と題しての実技とディスカッション。

来年の役員改選では、東鍼連会長に福島の梅宮先生以下、全員留任で行くことを確認しました。理事会は11時から3時までの予定が、1時間オーバーして4時に終了しました。

学術部報告

学術部長 佐藤 明

(1) 第1回生涯研修会報告

平成24年6月17日、今年度第1回目の生涯研修会がアイーナで開催されました。岩手県師会主催による生涯研修会としては通算11回目となります。会員24名、付添い2名、一般1名、学生4名の合計31名の参加者がありました。開会式では、昨年度の生涯研修単位取得修了者12名の賞状の授与を行いました。

講演の1題目は、今年度新たに就任した袖林広正法新保険部長による、「保険の取り扱い」ということで、6月3日の全国保険部長会議の報告を兼ねて講話がなされました。内容は、(1) Q&A形式の療養費に係わる疑義解釈。これは、伊藤庸一前保険部長の担当により説明がなされました。(2) 同意期間の解釈について。(3) 山形県師会で実際にあった再審査請求の事例について。(4) その他。ということで、配布された資料を基に袖林保険部長により説明が行われました。

講演の2題目は、佐々木実理事長による、「医療過誤について」です。全鍼110番の賠償責任保険の加入状況とその必要性及び加入の呼びかけ、そして、全国で起こった医療事故の事例が詳しく解説されました。

参考までに次に資料を記すと、全鍼110番加入者数全国8,330名、岩手県師会72名程度。平成23年度事故件数内訳(因果関係不明の例が多い)及び事故別内訳は、骨折9件・気胸8件・火傷7件・折鍼1件・挫傷・強刺激他13件・物損8件・施設賠償5件・個人賠償10件、合計61件となっています。

また、なかなか話す機会のない臨床の失敗談を、数名の会員から事例発表をしてもらい、意見交換も今までになく活発な発言が相次ぎ、情報の共有と生の勉強になりました。

講演の3題目は、同じく佐々木実理事長による、「災害時ケアとボランティア」と題して、理事長自身が率先して行動を起こすことができたいきさつについて話していただきました。すなわち、昨年の東日本大震災後における、被災地会員の安否確認作業と会員への義援金の協力呼びかけをいち早く実施し、他に先駆けた避難所マッサージボランティアの取り組みは、岩手県師会の団結力を示すものとなり、全鍼師会からも高く評価されたことなどが紹介されました。また、被災地会員の体験の紹介と、古水健吾、佐藤明両会員から当時の被災体験が語られました。さらに、非常災害時におけるボランティア活動や鍼灸マッサージ施術のマニュアルについて学習を深めることができました。

今回の研修会では、講師を務めていただいた本会役員と参加者とが活発な情報交換ができ、特に参加された学生たちの声を聞くことができるなど、とても有意義な研修となりました。

(2) 三団体学術研修会報告

岩手県視覚障害者福祉協会、県立盛岡視覚支援学校同窓会、そして岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会の三団体共催による「学術研修会」が9月30日(日)、岩手県立盛岡視覚支援学校において当会会員34名を含め、昨年以上に参加者が多い中で開催されました。午前9時30分から開講式が行われ、三団体の代表と学校長から挨拶をいただきました。

続いて、角田茂先生による講演「原因別の腰痛治療」ということで、筋・骨格系と自律神経からくる腰痛に対するオステオパシーを応用した治療の理論と技術という内容が話されました。

まず、手技療法の基本概念についてと健康の乱れや病気の発生原因、その検査と治療法について述べられ、さらに「腰痛に対する原因別治療法」を実技を通して説明をしていただきました。実技の方法は、ベッド4台に参加者が分けられ、モデル患者と術者の役割を決め、角田先生が各ベッドを順繰りに回り、手を取って丁寧に教えていただきました。前述した、筋・骨格系と自律神経異常から起こるものを見分ける方法として、

脚長差（短下肢側）の診察法の指導と、骨盤の変位、腰椎と胸椎のゆがみの診察法を指導していただきました。次に、自律神経の特に交感神経緊張（脊柱硬膜の異常緊張）から起こる痛みが多いことから、その診察法として筋力検査法を教えてくださいました。その後、治療法に移り、腰椎、胸椎の棘突起の変位、骨盤の矯正（短下肢側）方法などについての指導をしていただきました。

角田茂先生のご講演は、岩手県師会にとっては、3年前の11月15日の生涯研修会に続いて二度目という事もあり、参加者の関心も高く、熱心に耳を傾け手を触れながら学習に取り組んでいましたし、最初から最後まで熱気のある素晴らしい学術研修会になりました。

(3) 第2回生涯研修会報告

朝晩の冷え込みも厳しさを増すようになった10月28日、岩手労働福祉会館5階で開催された研修会は、受講者が学生6名を含め28名の参加となりました。今回も各師会長はじめ会員の皆様にはご協力いただき感謝申し上げます。

さて、今年度第2回生涯研修会は、本会の会員でもある、東洋はり医学会岩手支部長の藤原正先生をお招きし、講演と実技ということでご指導をいただきました。

午前の部は、講演「経絡治療の理論—①基礎編、②症例編、③質疑応答」でありました。経絡治療にまつわる内容を、わかりやすく明快な口調でお話していただきました。臨床例などは、やはり興味を引いたようでありましたし、マッサージから経絡治療に切り替えた様子や、患者一人当たりの治療時間などについても質問に答えていただきました。

午後の部は、「経絡治療の実技」ということで、参加者を3班に編成し、①治療法・藤原正先生、②脈診法は私、③刺鍼法・袖林広正法常務理事を講師として進められました。佐藤、袖林の両名は、以前に東洋はり医学会岩手支部で学んだ仲間です。実技の方法は、会議用の長い机を二台並べてベッドに代用しました。それを三台配置し、それぞれのテーマごとに45分間を目安に、講師が移動する方式としました。藤原講師は、モデル患者への施術を東洋はり医学会の経絡治療方式で本治法と標治法を体験してもらうというものでした。その際、息子さんが助手を務められていました。私佐藤は、モデル患者役と脈を診る役とを交代しながら、取穴や押手の手法や刺鍼後に脈状が変化することを体験してもらいました。袖林講師は、刺鍼感覚を体験してもらうことを中心に、参加者全員の前腕に補法と瀉法の手さばきを解説しながら指導をしました。各指導者が、3つの班を順繰りにローテーションし、時間を区切りながら指導するという方式は、より合理的で機能的なしくみでありました。

午後の実技は、和やかな中にも程よい緊張感もあり、いつもより長時間だった割には、あっという間の3時間であったと思いました。途中、1～2回休憩を入れたことも、集中力を持続するうえで効果的だったように感じています。

経絡治療方式を習得するためには、ある程度の時間が必要であり上達するためにはさらに継続して取り組む必要があります。研修会一回だけで覚えることは難しいことです。皆様のご要望により、再度企画したいと考えますのでご意見をお寄せください。

補記として、配布された経絡治療の資料を繰返しお読みいただくことをお勧めします。もし、疑問点がありましたら、三名の講師に遠慮なく質問をしてください。

事業部報告

事業部長 伊藤 庸一

(1) 奉仕活動報告

師会名	月 日	実施場所	参加者数	被施術者数
一 関	5月20日	養護老人ホーム 福光園、関生園	11	43
	7月29日	養護老人ホーム 福光園、関生園	9	23
	9月23日	第31回一関国際 ハーフマラソン大会	9 (遠野 2) (県師会 2)	120
二 戸	11月7日	養護老人ホームわくわく荘	4	21
盛 岡	11月11日	西厨川老人福祉センター	7	22
大船渡	9月2日	養護老人ホーム富美岡荘	6	37
奥 州	10月14日	養護老人ホーム寿水荘	7	22
県師会	10月14日	高松4丁目町内会祭り	2	11
	10月14日	高松4丁目町内会 健康づくり教室	4	15
合計		県師会と6師会 参加者 施術を受けた人	63名 314名	

(2) 一関国際ハーフマラソンボランティア活動報告

第31回一関国際ハーフマラソン大会が9月23日(日)、一関総合体育館(ユードーム)をメイン会場に国内外から1999名の選手が参加し開催されました。

数日前までの暑さが嘘のような涼しさの中、ハーフマラソン、10キロ、5キロの部に分かれ、黄金の稲穂が揺れる田園風景を望みながら、10時のスタートと共に健脚を競いました。

ゴールした選手が次々とマッサージを受けに入ってきます。

「走った後のマッサージは助かるなあ」

「気持ちいい」

「楽になった」

「こんなサービスのいい所は無いよ」

「また来年も来るから」

等々、お礼や感謝の言葉をかけられると、やって良かったと清々し気持ちになり、10時半から13時半まで殆ど休憩無くマッサージを行った疲れも忘れる思いになりました。

一関のマッサージボランティアは第2回大会から行っており、今回は一関師会より9名、遠野師会2名、県師会役員2名の計13名の協力を得て120名の選手を施術することが出来ました。

この活動は、県師会として「あはきの日・記念事業」協賛として一昨年から行われており、マッサージコーナーには岩手県師会の旗を立て、はり・きゅう・マッサージの名前の入ったビブスを着用しての宣伝啓発活動も行っていました。

これからも皆さんの協力を得ながら活動をしていきますので宜しくお願い致します。

保険部報告

保険部長 袖林広正法

(1) 平成24年度全国保険部長会議報告

平成24年6月3日(日)に、東京の麹町のルポールというところで、全国保険部長会議が行われました。

内容は2部形式で1部は意見交換会が約1時間、2部は全国保険担当者会議が2時間行われました。

1部は世代交代による、新任の挨拶が中心です。

2部は「Q&A」(療養費に係わる疑義解釈)です。

報告事項といたしましては、再審査請求と、Q&Aと、料金改定の三つです。

1つ目の再審査請求は、何らかの理由で不支給になったものにつき、60日以内に不服申し立てを行う、というものです。

今回は山形県での事例であります。不支給になった全国健康保険協会(協会健保)の山形支部が全国から、処分を受けた話です。

2つ目の「Q&A」は、療養費の支給基準の解釈と運用の各論的なことで、私たちはこれを学び、日々の臨床に役立てたいところであります。

3つ目は、料金改定は毎年6月になされますが、今年は柔道整復師の分が事業仕訳等によりおくれ、鍼灸も道連れの遅れ、秋に決定するか否かと言うところであります。

全体を通して感じたことは、いつものことですが、何のための全国保険部長会議か、または、全国保険部長会議がどうあるべきか、と、存在意義が問われる会議だったと思いました。

理由は、準備不足、議題脱線、保険局への不満などによる欠席県の多さです。

(2) 平成24年度東鍼連保険部長会議報告

今年も例年通り、11月24日に仙台の白萩にて東鍼連保険部長会議が行われました。

参加者は青森の寺内先生、秋田欠席、福島は代理で菅野先生、山形は伊藤先生と白田先生、宮城は佐藤一先生、岩手は私の6名で行われました。

第1会議は会議室で行い、各県の様子と取扱高の報告が行われました。

第2会議は客室で行い、「何で厳しいのか？」という内容でした。

第3会議は翌日の午前中、白萩一階のレストランで、保険こぼれ話でした。

午後は、東鍼連保険取り扱いならびに学術研修会があり、3コマありました。

「第1会議」

青森県では、大型業者が来て少し減少傾向にあるそうです。取扱高は4,289万円です。

秋田は不参加です。取扱高は5,349万円です。

岩手は昨年より増加しています。取扱高は1,970万円です。

宮城は地震と津波のため施術所や取扱高が減っています。取扱高は7,438万円です。

山形は東北ナンバーワンです。取扱高は1億3,967万円です。

福島は今年団体請求の組織を確立し、3パーセントの手数料ではじまったそうです。

そこでの取り扱い高682万円です。

「第2会議」

客室で行われ、「何で厳しくなってきたのか？」というお題で始まりました。

よくよく聞いてみると「官僚が法の解釈と運用を動かしている。」ということに決まり、終わりました。

「第3会議」

翌日の午前中に白萩のレストランで行われました。話は四つになりました。

一つ目は、レセコン「発揮君」の話です。山形の白田先生の紹介で、「安いし、一度味をしめると辞められない。」と、使用感想を述べていました。MAM JAPANというところで出していて、宮城県の飯田さんと言う人が作ったそうです。

二つ目は、政治的活動についてでした。

山形では組織を作って活動しているとのことでした。

三つ目は、柔道整復師あがりの上田孝之さんを応援しよう、という話でした。

彼は「勝ち残れ施術者」という本を出しているそうです。

四つ目は、「感謝される協会」という本の紹介でした。日本AMC株式会社というところが出しているそうです。

「午後の東鍼連保険取り扱いならびに学術研修会」

<1 コマ目>

佐藤一先生による、保険取り扱い調査報告です。内容は第1会議および第2会議のことですので省略いたします。

<2 コマ目>

宮城県師会副会長の相原雅春先生による、保険取り扱い実務についてでした。往療距離の算定方法について、細かく丁寧に解説された。質問も活発に行われて、やる気を感じました。印象的だったのは、宮城の場合だと協会健保と国保と後期高齢者では、取り扱い方を保険者に合せて、こちらの態度を変えて行っているところでした。

<3 コマ目>

特別講演（市民公開健康講座）「3.11大震災後の活動、緩和ケアを中心にして」

石巻赤十字病院緩和医療科部長の日下潔先生です。

最後に力強くお話されたのは、「癌だと死ぬ準備ができる、癌以外はある日突然が多い、だから癌で死ぬのは得であるし、怖くない。」と、名台詞で幕を閉じました。

組織強化部報告

(1) 東鍼連福島交流会報告

組織強化部長 佐藤 茂

9月1日・2日にかけて、福島県の会津で行われた東鍼連交流会に参加いたしました。

今回の交流会は、震災の影響で1年延期での開催で、観光等の“遊び”がメインとなる交流会というに相応しいイベントだったと思います。案の定、地元の福島県師会からの参加者が多く、岩手からは袖林広正法さんと私、佐藤茂の2名参加し、青森・宮城からも数名あと北海道から1名参加。ただし、秋田と山形は欠席となりました。

まずは、会津駅で集合しバスで移動。最初に向かったのは『野口英世記念館』。そこには、野口英世の生家や生い立ち、功績の説明の展示などを見学した後に、すぐ近くにある『ビール館』で日本一にも輝いた地ビールを飲み、裏磐梯山を望みつつ綺麗なエメラルドグリーンに輝く『毘沙門沼』でおいしい空気を吸いました。

その後は、白虎隊が自決した飯盛山の麓の土産屋で買い物をし、私も含めて5、6人が飯盛山を登り、白虎隊の軌跡を見学し、そこからは鶴ヶ城を見ることができました。

下山の途中に、世界にも類のない『さざえ堂』というお堂に参拝してきました。これは、一度入って上ると同じ回廊を通る事なく下り、別の出口に出るお堂で、本当に珍しい建物です。その後、東山温泉にて座談会となり、交流会らしい一時をすごしました。

翌日は、福島県師会の平栗辰也先生による講習でテーマは「治療時、災害が起きた場合の対処法について」が行われました。

その後は、雨には降られたものの『塔のへつり』という河食地形の奇形を呈する景勝地で、風光明媚な景色を観光し、今でも茅葺き屋根が整然と並ぶ旧宿場の『大内宿(おうちじゅく)』に寄り、駅に戻り解散となりました。

今回は、福島県師会の方々に親切にしてもらって楽しい交流会となりました。福島県師会の皆様、本当にありがとうございました。

今まで交流会は、研修中心で謂わば「小さな東鍼連大会」だったのですが、今回のように遊びを中心とした交流会は、正に交流というに相応しく非常に良かったと思います。

こういう形で交流会が定着してくれば、もっと参加者も集まるかもしれません。

4年後は岩手の番になりますので今回の交流会は参考になりました。世界遺産の平泉が良いと現時点では思っておりますがどうでしょうか？

(2) 東鍼連福島交流会に参加して

常務理事 袖林広正法

平成24年9月1日、2日に、会津若松の東山温泉郷にて交流会が行われました。今回のテーマは勉強せずに、観光と言うテーマだったので、観光における紀行文となります。

私は、佐藤茂さんと打ち合わせをして、会津若松駅前集合1時間前に着いて、駅前の来夢(ライム)で喜多方ラーメンを食ってから1時間早く着くので行きました。

郡山で会津若松行きの電車に乗り換えたら、梅宮先生が途中から乗り込んできたので、こんな大先生に聞いても良いのかと、足がガタガタ震えていましたが、ワンカップの力を借りて思い切って聞いてみました。

「梅宮先生、喜多方ラーメンというのはどうゆうものなのですか？」すると、

「喜多方は麺が太いんだ。ニグは厚切りでやっこいのがうめんだ。」

「基本は醤油だ、味噌はあぎだ時に食うんだ。」ぼくらは、なるほどとうなずいた。で、僕らは、

「会津若松についたら、来夢という喜多方ラーメン屋に行くのですが、どうでしょうか？」すると、

「一緒にいぐべ、まだ行ったことがない。」ということになり、そんなこんなで会津に着きました。すると、考えることは皆同じで、先発隊もすでに来夢にいつているそうで、地元以外はみな喜多方ラーメンを食べました。福島県人の話を聞くと、「会津に行ったら、ソースカツ丼だべ、喜多方ラーメンは喜多方にいつて食うもんだべ。」と教えてもらいました。佐藤茂さんと明日の帰りはソースカツ丼を食おうとしたが、計画は失敗に終わってしまいました。

さて、話を来夢に戻します。私は梅宮先生に習ったから、醤油喜多方チャーシュー麺、ゆで卵トッピングを頼みました。私はおいしくて大満足でしたが、梅宮先生に感想を聞くと「ニグが薄い、ニグがしょっぱい」と辛い評価でした。

それから、野口英世記念、隣の、会津地ビール館、次は裏磐梯、毘沙門沼、鶴ヶ城（バスの中から 観るだけ）をへて宿に着きました。

宿は1泊2食で7千円のところでしたので、夜・朝どちらもバイクングでした。それから、佐藤茂さんとゲームコーナーでエアホッケーで勝負しました。4対1で私が勝ちました。その台は子供向けで小さいものでした。佐藤茂さんは、ムキになって速い球が跳ね返って自爆しました。私の球のゆっくりなものは時々ゴールに入りました。視力が勝敗を決めたものではないようでした。

翌日は、へつりを観て、大内にて一本ネギ蕎麦としんごろうをたべました。一本ネギ蕎麦とは、箸を使わずネギを箸がわりに蕎麦を食うというものでした。蕎麦を食うときにネギも少しづつ食うのが乙だということでした。

しんごろうは、福島流切たんぼみたいなもので、ハンゴロシを棒にひらべたく巻き付けその上から味噌をぬり焼いたものです。これまたうまかったです。それを食っていたら、ソースカツ丼を食う時間が無くなってしまいました。いつの日か、鶴ヶ城に入り、会津のソースカツ丼、喜多方のラーメンを食べに行ってみたいです。

最後に、二次会の席上で自己紹介の時に世代交代したことをきちんと話してきました。

スポーツセラピー担当報告

スポーツセラピー担当 佐藤 茂

(1) いわてアスレティックトレーナー事業報告・第4回養成セミナー

昨年の震災の影響で中止されていた、岩手国体に向けた養成事業が5月13日に1年以上ぶりに再会いたしました。

震災の影響でしょうか、メンバーが少し減っていたように見えたが、知り合いになった沿岸の方も無事だったとのことで、それだけでも何よりでした。

まずは、足澤放射線科院長の足澤 輝夫先生の『スポーツ医科学』についての講義を受け、レントゲン写真を見せてもらいました。

疲労骨折においては、初期段階はレントゲンに骨折線が写らなく骨折部の限局的な圧痛と腫脹で疲労骨折と診断したものの、それでも監督は練習するよう指示をしたために

8日後に完全骨折に移行した症例の話などを聞かされました。他にも骨シンチグラフを用いた症例もあり、これだと全身を映せるので本人も気づいていない疲労骨折をしそうな部位も分かるようです。ただ、時間がかかるのが難点とのこと。

昼食を挟んで、次に『測定と評価』を日体協公認のアスレティックトレーナーによる講義を受けました。今年の2月の生涯研修会に参加された方は記憶にあるかと思いますが、私が講師をした時に述べた"knee in - toe out(ニーイン・トゥーアウト)"の話題も出てきました。身体は何するにせよ"連動"しており、どこか一部に不調が生じれば、必ず何処かに代償が起こります。局所の症状にだけ焦点を当ててはならないことや、実際に歩行する動作を観察し評価をすることをしました。歩行動作は左右の肩・骨盤・膝・足の動きを観察し、評価するのですが、なかなか評価するのが難しく、今後の課題となりました。

なお、通常は利き腕の肩が少しばかり下がっているとのこと、実際下がっていました。何故、こうなるのかというと利き腕はよく動かすので筋が反対側より柔軟なために起こる現象であり、決して異常ではないとのこと。どうか、この情報を明日からの臨床に役立てていただければと思います。

最後にいつものテーピングの実習をしました。今回も基本の足関節のテーピングの練習で、まずアンダーラップ(テーピングを直接皮膚に貼ると皮膚にストレスが掛かるので、それを防ぐために先に巻くもの)を巻いてからホワイトテープ(勿論伸縮しないタイプの)を貼ります。1年のブランクが空いたせい、あまり上手く巻けない人も結構いました。因みに、私はそれなりに出来たのでご安心を。

休止していた分、毎月のようにこのセミナーは開催されますので6月も行って参りますので、また報告します。

(2) 同・第5回養成セミナー

6月10日に、紫波体育館にて5回目のトレーナーセミナーに参加し、今回は救急処置とスポーツ医学、テーピングの講習が行われました。

まずは、『スポーツセーフティ?ジャパン』という法人から数々のトレーナー実績のある佐保 豊先生による救急処置の講義で、心肺停止、脳震盪、スポーツ外傷および固定法、熱中症などのことと、そのリスク管理についての講習とそれらをシミュレーションしてグループ分けをした実技をしました。

私のグループは残念ながら時間の都合がつかずにシミュレーションの実技は出来なかったのですが、他のグループは自分なら、こんなことは出来ないなど思うこともできていたので、いい勉強をさせて頂いた時間でした。

次のスポーツ医学は内科がテーマで、盛岡友愛病院神経内科の医師である小泉大造先生の講義が行われ、まとめて言うと…

- ◆循環器疾患は突然死に繋がるので、既往歴と家族歴の聴取と専門医に受診させる事
- ◆気管支喘息に罹患していても金メダルは獲れる
- ◆貧血はパフォーマンスを低下させる
- ◆熱中症にはしっかりと対応すること

といった内容でした。

最後に、いつもながらテーピングな訳ですが、今回は基本の足関節の他に足底のテーピングを練習しました。そして足底は簡単に巻けました。

(3) 同・第6回養成セミナー

平成24年7月14日に紫波町の『サンビレッジ紫波』にてトレーナーのセミナーに参加して参りました。今回はグループワークをメインに行いましたが、内容はグループ分けしてそのメンバーでトレーナー活動のシミュレーションをし、その内容を発表するものでした。

私たちのグループは男子新体操で足関節を負傷した人のアスレティックリハビリテーションについてのシミュレーションを行いました。正直上手く出来なかったです。

私たちのグループは、鍼・灸・マッサージ・柔整師が一人(自分)、柔整師が一人、あとOTが一人の計3名でしたが、ここにPTがいれば、リハビリに関しての良きシミュレーションができたのかもしれませんが。

やはり、トレーナー活動はそれぞれの特性を活かせるよう連携が大事なようです。

その後、菅整形外科医院長で自身も剣道に取り組んでおられる、菅義行先生によるスポーツ医学で下腿・足部のスポーツ外傷・障害についての講義を受けました。

セミナーの報告は終了ですが、翌15日は同会場にてトレーナー実習として、男子新体操の選手のサポートをしました。

この日は私とPTの方と2人でアスレティックトレーナーのもとでの実習に参加しました。したことといえば会場設置・後片付けの手伝い、選手たちの練習および演技披露の見学と選手のケア(アイシング)です。

今後はこういった実習にも参加することになりそうで、日程を調整しなくてはならないので面倒ですが実務経験を積むことが大事なので可能な限り参加します。

それでは、またご報告をします。

介護予防事業推進委員会報告

介護予防事業推進委員長 古水健吾

(1) 第6回地域健康づくり指導者研修会(前期)報告

平成24年7月15日～16日と東京で行われた、地域健康づくり指導者研修会(前期)に行ってきました。今回は、昨年に続いての参加で、ステップアップ研修の形で参加してきました。

1日目の前半は、オリエンテーション後、経絡ストレッチ・チェアエクササイズ・フロアエクササイズの復習から始まりました。復習する中で、プラスアルファの指導もありました。その後、グループに別れ、指導しあうという形で進められました。

後半は、地域包括ケアシステムにおける職種連携という事でのシンポジウムでした。

このシンポジウムでは、地域包括支援センター関係者(社会福祉士)・行政関係者(介護保険課)・地域支援事業受託事業者・施術所での介護予防実践者のシンポジストから発表後、フロアからも実践の発言もありました。発表、発言を聞いて、事業をして行く上で、他職種との連携の必要性、大事さを感じました。

この日の研修後、懇親会があり、これにも参加し、飲みながら食べながら色々と情報交換ができ良かったです。

二日目は、前半は、マッサージ・指圧・ストレッチなどでの浮腫み改善法、デイサービスでの体操の指導がありました。その後、グループに別れ指導しあうという形で進められました。前日の分も含め、「指導していく上で、ただ聞いた通りを話すのではなく自分なりに工夫して、相手に分かりやすく話すように」という講師からの指導がありました。当たり前のことなのですが、これがなかなか難しいとの事でした。

後半は、グループワークで、介護予防教室を開催する上での問題点、その解決策を話しあいグループごとに発表しあうというものでした。私が入ったグループでの話し合いは、次の様なものでした。

問題点として、スタッフ不足、会場がない、参加者への呼びかけをどうしたらいいか、行政との関わりをどういうふうしたら良いか等が出されました。解決策としてですが、スタッフ不足については、地域の仲間で呼びかけあいやってみる。会場の問題については、地域の集会場・公民館・デイサービス等を使わせて貰う。呼びかけについては、地域の自治会・民生委員・老人クラブなどへ話してみる等、行政へは自分たちが出来ることを訴えていく。このようなことが話し合われましたが、他のグループの発表も聞いて色々と参考になりました。

まとめとして、ひとつの事業を進めていくうえで、時間はかかるが色々と積み重ねていく事が必要だということ。他職種との連携も必要であり大事だということ。自分たちで実績作りをし、出来ることをアピールしていくことなど。

技術面では、経絡ストレッチ・チェアエクササイズ・フロアエクササイズなどを活用し、治療室で患者さんの治療や介護予防に生かしていくこと。

来年の2月頃に後期の研修会が計画されているようですが、これに参加したいと思います。これが、技術、知識、情報などのステップアップになるようにしたいものです。

以上、まとまらないものになりましたが報告とさせていただきます。

(2) 高松四丁目町内会・健康づくり教室報告

当委員会では、今年度計画した活動の中では一番大きなものとなる、地域町内会公民館を借りての介護予防事業を、健康づくり教室という名称で実行することが出来ました。

開催日時は、平成24年10月14日(日)15時～16時30分、実施会場は、高松四丁目町内会公民館でした。今回の健康づくり教室は、町内会公民館が主催となり県師会の共催で行うことが出来ました。参加者は、町内会から15名(男性3名、女性12名)の参加と介護予防委員会から指導員として4名が参加しました。

今回の教室の流れは、次のようになりました。

1. 開会式

主催者あいさつ 千葉健一町内会長

指導員紹介 古水健吾 佐藤 明 佐々木厚男 松下優子

2. 健康づくり教室

- ・ 日程説明
- ・ 血圧・脈拍測定
- ・ 基本チェック
- ・ 体力測定
 - A. 握力

- B. 体前屈（指先～床）
 - C. 片足開眼立ち（秒数）
 - ・経絡テスト（腰痛、首・肩こり診断）
 - ・経絡ストレッチ（腰痛、首・肩こり治療）
 - ・イスを用いた転倒予防運動（チェアーエクササイズ）
 - a. 上肢、曲げ伸ばし（肩関節の可動域改善）
 - b. 上肢、筋力強化（上腕二頭筋・上腕三頭筋）
 - c. 体幹、上肢を前方に（腹筋・背筋の強化）
 - d. 体幹、左右ひねり（回旋筋群の強化）
 - e. 下肢、足踏み（大腿部、前面・後面・側面の強化）
 - f. 足関節、つま先立ち・踵立ち（足関節、屈筋群・伸筋群）
足挙げ（大腿四頭筋の強化）
 - h. 股関節外転・内転（殿筋群・大腿筋膜張筋・内転筋）
 - i. 立位、背もたれを握る（握力強化）
 - j. 立位、片足けり（殿筋群・大腿後面・背筋・大腿筋膜張筋）
 - k. 下肢、スクワット（大腿四頭筋、ハムストリング、殿筋）
 - l. 下肢、つま先立ち・かかと立ち（足関節、屈筋群・伸筋群）
 - ・東洋医学健康講話
「土用について」
 - ・参加者のマッサージ体験
3. 閉会式
- 指導員あいさつ
- 主催者あいさつ

以上のような流れになりましたが、今回の健康づくり教室は、一般の人を対象としては初めてのものでした。プログラムを4人で分担しましたが、初めてという事で緊張もあってか、血圧・脈拍測定や、経絡テスト及びストレッチ、チェアーエクササイズの指導がスムーズにいかない所もありましたが、参加者・指導者ともに和気合い合いの中進み、考えていたプログラムを行うことができました。特に、経絡テスト・経絡ストレッチ・マッサージなどは喜ばれました。

今回は、9月3日に一関市藤沢町のディーサービス「ゆうゆう」で行われていた介護予防教室を見学した事も生かされたと思います。そのお陰で、より明確になりイメージ通り実行できたのだと思います。また、今回に向けて何度か練習を重ね、9月30日には直前リハーサルを行うなどしました。

10月14日は、町内会文化祭の地域イベントがあり、無料マッサージコーナーが設けられ、佐藤、古水の両会員が11名施術し好評をいただきました。その際、無免許啓発チラシを配布しましたし、公民館内で、終日、県師会ののぼり旗を2枚掲示したこと、健康づくり教室の時は、県師会が新調したビブスを4人で着用し、はり・きゅう・マッサージ啓発活動に繋がったと思います。

最後に、今回の教室が成功したことが、自信と意欲にもつながりました。これを生かし、次回の健康づくり教室の開催に向けてさらに勉強していきたいと思っております。

震災対策委員会報告

震災対策委員長 佐々木 実

活動のまとめ

－2011年3月11日・午後2時46分にMG9.0の大地震発生。大津波で沿岸部の会員7名が家や施術所を流されたり、甚大な被害を受けたりする。それに対する対応をまとめたもの－

会員の安否と被害状況確認

- ・速やかに「対策委員会」を立ち上げる（正副理事長＋総務・会計部長）。
- ・日ごろ会員の家電・携帯電話番号・メールアドレスを役員全員に周知しておく。
- ・デマや口伝えの情報には留意し、最終窓口は一つとし、情報を集める。

ボランティア準備

- ・ボランティア希望者を募る（全鍼110番加入者を中心に）。
- ・被災地避難所には県師会が、それ以外の避難所には支部師会が当たる。ただし、支部師会ボランティアも対策委員会が関与しまとめる。
- ・県師会として災害時に使える資金をプールしておく。それが不十分な場合は、被災者以外の会員に義援金を募る。振込用紙を送る（全盲者にも配慮し、記入済みのもの）。金額は会員の家計の負担とならないように低額（一口2千円程度）とし、何口でも受け付けるとする。ご芳名簿は「県師会情報」や「会報」に載せる。
- ・被災地社会福祉協議会等関係団体と連絡を取る。
- ・先発隊はマッサージ師を中心のメンバー構成とする。避難所の条件が整ったら鍼灸師も派遣する。また、小児鍼など刺鍼せずに治療出来る療法も身につけておく。
- ・被災地では自己完結を鉄則とし、持ち物は、マスク・上履き・消毒薬・白衣など。
- ・県師会からは現地までの交通費と弁当代（500円）を支給。

ボランティア活動

- ・会員個人の車で被災地に行くのは避け、公共機関をなるべく使う（事故や故障への配慮）。
- ・避難所窓口に行き帰り挨拶をし、次回の予定も告げる。
- ・ビブスを着用し立場を明らかにし、周りに安心感を与える。
- ・施術は事故のないように軽めのマッサージ、痛くない鍼を心がける。
- ・帰って来たら委員会に報告し、次回担当者への引継ぎを行う。

ボランティア終了

- ・被災者が仮設住宅に移ったら終わりとする。その後のことは、地域会員の不利益とならないように配慮する。
- ・ボランティア実績を主務官庁や全鍼等に届ける。
- ・反省会を兼ねた慰労会の実施。

被災会員へのサポート

- ・家や施術所を失った、あるいは半壊以上の人を対象とする。
- ・会員より集めた義援金の中から一人3万円を見舞金として送る。（出来ることなら会計より出資出来る形を取っておくのが望ましい）
- ・会費（県と全鍼）1年分を免除（県師会会計より）。後に全鍼より全鍼分の会費（1

年分) を免除すると連絡あり。

- ・支援物資を会員の車で被災者に配る (2回)。また、治療器具等の援助物資を小包で送る。
- ・全鍼から送られた義援金の中から1人15万円を見舞金として送る (額は全鍼からの指定)

東鍼連宮城大会報告

(1) 第35回東北鍼灸マッサーヂ学術大会報告

学術部長 佐藤 明

平成24年7月1日、仙台駅から秋保温泉篝火(かがり火)の湯緑水亭に向けてバスが出発しました。岩手からの参加者は20名と地元宮城に次ぐ多さでありました。

10時30分からの理事会・代議員会、保険担当者会議、組織強化担当者会議の3つの会議に出席する役員は到着後すぐ会議に入りました。

13時から開会式は始まりました。大会テーマは“くじけず、あきらめず”共に復興発進!「治療法を拓げる鍼・灸・マッサーヂ」—確信しよう!三療の有用性—というものでした。

山田幹夫宮城県師会長、梅宮光男東鍼連会長のあいさつをはじめ、地元知事や国県市会議員のあいさつや祝電の紹介などがあり、会場に集まった東鍼連会員は盛大な拍手を送りました。

続いて、学術臨床研究発表に入りました。各県代表6名による臨床研究発表は、学術大会のメインのプログラムとなるものです。

今大会の発表テーマは「頸肩腕症候群」でした。トップ登壇は、岩手県師会の佐藤茂先生の「肩甲拳筋へのアプローチと陰陵泉による遠隔療法」でありました。プロジェクターを使っただけの発表は、大変すばらしく高く評価されました。発表された6題は、活発な質問や意見交換もあって有意義なものとなりました。発表のあとは、梅宮光男会長の講評をいただき、感謝状と記念品の贈呈が行われました。

次は、市民公開講座ともなった、安保徹先生によります学術特別講演「病気は自分で治す」というすばらしい講演でありました。新潟大学大学院教授であり、免疫学で世界的に有名な先生の講演という事もあり、多くの市民が参加されていました。その口調は、やさしくわかりやすく、そして親しみのある身近な内容もあって、時に笑いを誘い飽きることのない楽しい講演でありました。

それから、杉田久雄全鍼師会会長による特別講演は、「鍼灸マッサーヂ業界の最新情勢について」でありました。関係団体との協調と連携、健康保険療養費の問題、無免許問題、介護保険制度の問題、政治連盟のことなど多岐にわたることがらをお話いただきました。

一日目の最後は、やはり楽しい懇親会であり、参加者多数の大宴会となりました。浜田郁夫北海道師会長の乾杯の音頭で和やかに始まり、各県ごとの、ご存知カラオケの競演がにぎやかに続き、更に実行委員会による福引会で一段と盛り上がりを見せました。

地元アトラクション出演は、仙台すずめ踊りとにぎやかなお囃子に懇親会は最高潮に達し、おいしいお酒と料理を堪能した後は二次会へと流れ込みました。途切れることのないカラオケ競演、情報交換の楽しい時間は過ぎ、各部屋に戻り寝床分科会となりました。

大会二日目は、塩釜市で純漢方鍼灸接骨院を開業している、佐藤広一先生の実技講演でありました。演題は「三療による全身調整の優位性」—腰、下肢痛は治って当たりまえ—という副題がありました。先生独自の治療理論を実技中心で解説しながら進められました。腰部の症状には、下肢の胆経や膀胱経の筋張りや硬結を緩めることを行うものとし、頸肩部症状には、上肢の心経と小腸経の硬い筋張りを緩める施術をすることで、頭部や体幹の主訴が改善又は消失するというものでありました。そして、その主訴部は、刺激しないか補助的な程度で済ませることが重要だと説かれています。

施術は、手技又は鍼灸を用いるとしています。腰痛を例にすると、鍼施術は特効穴として、崑崙・中封・金門に単刺術または雀啄術を紹介されました。お灸は硬結部位に知熱灸・温灸を使う事、さらには奇経療法の活用として、照海—列缺、太衝—通里へのM P鍼や五壯—三壯または三壯—二壯のお灸法も説明されました。

会場にはベッドを3台置き、モデル患者を腹臥位にして、順繰りに実演と解説をしながら、実際の施術後の変化について参加者に触察してもらい、左右を揃えることと主訴部の筋緊張を取る目的で全身調整を行うことの重要性を強調していました。ちなみに、杉田会長もモデル患者となっていました。

最後に、梅宮会長から来年の東鍼連福島大会の案内があり、宮城大会は閉会しました。

(2) 東鍼連宮城大会学術発表論文

—肩甲挙筋へのアプローチと陰陵泉による遠隔治療—

岩手県師会 佐藤 茂

頸肩腕症候群について

頸部から上肢にかけての異常を主訴とし、他の整形外科的疾患たとえば変形性頸椎症、頸椎症性神経根症、胸郭出口症候群などを除外した、検査などで病因が確定できないものを頸肩腕症候群と呼ぶ。

我々、治療家が日常的に遭遇する疾患でもある。そして、この治療法には王道はなさそう。

肩甲挙筋へのアプローチ

肩甲挙筋について

- ・頸椎と肩甲骨を結ぶ筋肉で、4~5個の筋腹で構成され、その太さは上位のものほど太くなっている。その名のごとく、肩甲骨を上げる筋肉で、この筋肉が収縮することにより肩こりの原因となる。
- ・首を横方向から見ると、肩甲挙筋の起始や停止付近は胸鎖乳突筋や僧帽筋に隠れるが、その一部は皮下に確認が可能である

肩甲挙筋のアプローチ法

1. 患者は座位にて、術者は後方に位置し行う。
2. 患者は上肢を約90° 挙上し、指の先端を肩峰辺りに置く。
3. 肩甲挙筋の停止部に刺鍼する。

4. 患者がとっている肢位を維持できるよう上肢を把持し、肩甲骨をあらゆる方向へと他動運動して運動鍼を行う。

※気胸と折鍼事故には細心の注意を払うこと！

症 例 1

87歳 男性

主訴：首から肩にかけて痛む

随伴症状：眼がショボツク、頭がハッキリしない

所見：特になし

2日に1度来院し同処置をすると症状がその都度、緩和し、3回目の処置でおおむね治癒と認めた。

症 例 2

53歳 男性

主訴：左第3指のシビレ

随伴症状：左手指の軽度の知覚異常

既往歴：10年前に交通事故によるむち打ち症

所見：特になし

一度の処置でシビレと知覚異常が消失した。

考 察 1

- ・肩甲挙筋の過緊張は、頸肩腕症候群や肩コリには必発といってもよい中心的な症状と思われる。
- ・運動鍼により、この筋の過緊張を緩和させたことが好影響を及ぼしたのではないだろうか？

考 察 2

- ・では何故、肩甲挙筋へのアプローチで、患部のみならず随伴症状にも好影響を及ぼすのか？
- ・正直わからないが、肩甲挙筋をはじめとした頸・肩上部の筋群の過緊張は、神経の伝導障害を引き起こし、随伴症状を発生させるのかも知れない。

陰陵泉による遠隔治療

『陰陵泉』で肩こり、スッキリ？

- ・頸肩腕症候群や肩こりでは、肩上部に圧痛を伴う筋硬結が往々にして認められる。
- ・となれば、これの減少ないし消失は、症状の寛解につながると考えて良いだろう。
- ・そして、これを実現せしめる可能性が陰陵泉にはあるかもしれない。

陰陵泉について

- ・脛骨内側顆の下、脛骨内側の骨際、陥凹部に取る。
- ・足太陰脾経の合水穴である。
- ・東洋医学では脾臓は水分代謝にも関わっており、この経穴は湿邪を取り去るとも言われている。

陰陵泉の使用法について

- ・まずは、全身調整等をして症状が残存した場合に陰陵泉の施鍼をした。
- ・しかし、治療の初めから陰陵泉に施鍼したケースには効果が無かった。

- ・なお、一部始終鍼灸治療のみで行った。

症 例 1

89 歳 女性

主訴：頸部から三角筋部にかけての疼痛

所見：特になし

背臥位で陰陵泉に刺鍼し雀啄術をした後、肩上部の圧痛と硬結が消失した。

それに伴い疼痛が緩和する。

症 例 2

41 歳 男性

主訴：右上肢のシビレ

随伴症状：右手指の知覚過敏

所見：特になし

陰陵泉へ刺鍼し雀啄。肩上部の筋緊張が緩和され、シビレの消失と知覚過敏が改善。

考 察 1

- ・筋硬結の正体は何か？諸説あるようだが、その中に『筋の浮腫』という説を支持したい。
- ・遠隔治療は自律神経反射によって、もたらされる現象であると考えられる。
- ・陰陵泉への施鍼により、肩上部周辺の筋の循環機能が自律神経反射により高まり、筋の浮腫が吸収されたのではあるまいか？

考 察 2

- ・運動する前には、ウォーミングアップするのが望ましいとされる。それは運動するために必要な循環機能を向上させるための準備である。
- ・陰陵泉単独に処置しても効果がなかったのは、まだ循環機能の反応が鈍かったためか？つまり、ウォーミングアップ不足！
- ・全身調整を行ってからだと効果があったのは、陰陵泉の施鍼に活発に反応しうる循環機能が向上した結果ではないだろうか。

考 察 3

- ・陰陵泉は脾経の経穴である。頸部や肩上部の経穴は脾経と交会する経穴はないはず。
- ・肩上部は東洋医学的に考えても、陰陵泉との関連性はなさそう。
- ・何故、陰陵泉の施鍼で肩上部の圧痛や硬結が緩和されるのかは謎であるが試す価値はあるはずだ。

第 11 回東洋療法推進大会 in 静岡大会報告

理事長 佐々木 実

10月14日、15日に「熱海後楽園ホテル」で行われた大会は、二日間とも25度を越える好天に恵まれ、400人余りの参加者がありました。テーマは、「今こそ東洋医学を考えよう！」。

一日目、開会式は12時からスタートし、オープニングの講演は、参議院議員でジャーナリストの有田芳生氏の「体と心に鍼灸を一被災地で実感した鍼灸の力」と題する講演でした。被災地回りをしている時、ショックで声の出なくなったお年寄りにボランテ

ィアで行っていた鍼灸師が鍼をした途端に声が出るようになったことを目の当たりにしたことから話を発展させ、鍼灸の持つ役割や素晴らしさを90分にわたって語っていました。

その後は分科会ごとに分かれての受講ですが、私が参加した部分だけを簡単に記しておきます。

東日本大震災活動報告—これは被災地岩手・宮城・福島の三県師会が会員の安否確認からボランティア活動に至るまでの動きをそれぞれ20分位ずつ報告するというものでした。私も、トップバッターで地震が起きてからの県師会としての動きを話して参りました。

災害支援活動研修—これは参加者を5グループに分け、主催者側から問題が出され、それに答えて点数を競うというゲーム感覚の研修会でした。

第1問は、文章に書かれた学校・交番・市役所・発電所などを地図に記入して行き、時間制限の中、震災状況を把握していくというものでした。

第2問は、師会として安否確認や状況把握に必要と思われる事項や手段を箇条書きしていくというものでした。安否確認手段に、電話やメール・無線等の他に「伝書鳩」と書いたグループなどもいて笑いが起きました。

第3問は、ボランティアに出かけるための準備について、思いつく限りを箇条書きするものでした。私のいたグループは、なんと5チーム中最下位でした。経験者の私がいながら誠に面目ありません。(ぺこり)

2日目は、地域医療における鍼灸師マッサージ師の役割—これは保険局と学術局のコラボレーションで、療養費の今後と介護への参入問題の現状と方向性が語られました。どちらにしても厚生労働省への働きかけには、鍼灸マッサージのエビデンスの集積が大事とのことでした。

鍼灸マッサージを取り巻く環境を考える—これは無免許問題についてあらかじめ質問を出してもらい、それに一問一答方式で担当者が答えるというものでした。改めて、無免許撲滅の難しさを痛感させられた分科会でした。

大会は全体のまとめを兼ねて閉会式が行われ、13時前には全てを終了致しました。来年は新潟で行われます。

以上、簡単ですが報告と致します。

各師会活動報告及び会員の動向

(二戸、盛岡、奥州、一関、大船渡、遠野、宮古)

二戸師会報告

広報担当 古舘吉弘

会員の皆様お変わりございませんでしょうか。

さて、今年も早いもので1年が過ぎようとしています。今年もなんだか異常気象のような年でした。特に、今年の夏は6月から7月後半までは暑い日があったり、急に寒くなったり寒暖の差が激しかったのですが、8月のお盆すぎ辺りから、9月の終わりまでとにかく猛暑続きで本当に参りました。

そんな中、相変わらず様々な事件や政治のごたごたなどいろいろありました。なかなか、震災復興もまだまだ進まず被災地域の方々のご苦労されていることと思います。

来年こそは、少しでも良いから前に進むことを期待したいものですね。

さて、二戸師会の状況につきまして、4月21日に総会がおこなわれ役員改選が行なわれ、今回も留任と言うことで、再び私、古舘が会長としてやっていくこととなりました。どうぞ、宜しくお願いします。

次に、11月に老人ホーム（わくわく荘）にて奉仕を行ないました。

その他、県の事業で総会、東鍼連、生涯研修会などに、参加しました。

二戸師会の会員は皆元気で仕事に励んでおります。ただ、最近、九戸と軽米に整骨院と鍼灸マッサージが一緒になったものが開業してきました。私達もうかうかしてられません。とにかく、私達でできることを精一杯やって行くことだなあと考えています。

それから、最近整体などの様子も変わってきたように思えます。それは、6月頃に消費者生活センターから出された医療事故などについての情報が出されたり、新聞やテレビなどで取り上げられたことが背景にあるのか、チラシなども出回らなくなったように感じます。今後も、どんどんマスコミ等で取り上げるようになればいいと思います。

最後に、これから益々寒い季節となりますが、特に被災地域の方々には十分体調管理をして、身体を壊さないようにして頂きたいと願っております。来年こそは、良い年であればと願っております。以上、報告を終わります。

盛岡師会報告

総務担当 中渡智彦

皆さんこんにちは。今年から2年間、戎さんと総務を担当することになりました。どうぞよろしく申し上げます。

今年度は2名の方が入会し、1名の方が大船渡師会から転入され、58名となりました。ご紹介します。長内義行さん、三浦百代さん、佐藤明さんです。

また、総会や研修会への参加者が増えています。去年は、東日本大震災の影響で中止になった東鍼連宮城大会が、7月1・2日に仙台市で行われ、泊りがけの研修会にもかかわらず10名の方が参加しました。1日目の学術講演では、安保徹先生が「病気は自分で治す」という演題で話されました。僕は参加できませんでしたが、「なるほどと思う所がいっぱいあった」など、会員の皆さんから声が聞かれました。

以下に、盛岡師会の事業を記します。

4月 8日 定期総会。

9月1・2日 東鍼連福島交流会に2名参加。

11月11日 西厨川老人福祉センターでマッサージボランティア。7人で22名施術。

12月 8日 忘年会。

当日は、12月としては珍しく1日に雪が20cmも降り、除雪車もあまり走らず、道路状況が悪いにもかかわらず欠席者もなく、20名の参加でカラオケや、2グループに分かれての曲当てクイズなど今までとは少し違う内容で、あっという間に時間が過ぎました。

ほかに、4回の役員会、県や上部団体行事へ参加しました。

また、盛岡市とタイアップして、市内4か所の老人福祉センターでのマッサージ指導教室を行いました。

盛岡師会は、会員数は去年よりも2名増えて、58名となり研修会への参加者も増えてはおりますが、まだ1度も参加したことがない方もいますので、25年度は会員の皆様の一層のご協力をお願いして、報告いたします。

奥州師会報告

副師会長 小野田サヨ子

世の中、相変わらず騒がしく落ち着かない日々が続いておりますが、当師会は、本年は波静かに過ぎゆくかと思っておりましたところ、平成25年元旦早々に思わぬ訃報が飛び込みました。今野進会員が亡くなられたのです。当師会の役員を長きに務められ会に多大な貢献をされた方なので、会員一同大変落胆しております。会も一層寂しくなりました。残念です。ご冥福を祈るのみです。

さて、以下に当師会の活動をご報告します。

平成24年

- 4月 8日 定期総会
- 8月 9日 はり・きゅうの日として地元新聞に広告を掲載
- 8月26日 第1回役員会
- 10月14日 老人ホームへの慰問治療 7人参加
- 12月30日 第2回役員会

平成25年

- 1月27日 新年会予定
- 3月 3日 第3回役員会予定

以上です。

一関師会報告

師会長 舘下正則

平成24年度師会報告をいたします。

初めに会員動向について、退会者・入会者はありません。現在、会員数11名。

さて、昨年の3・11東日本大震災から、はや2年になろうとしていますが、まだまだ、復興は誰の目から見ても遅れています。

さる、衆議院総選挙の結果、与党だった民主党が惨敗。変わって自民党が圧勝、新政权に期待したいです。経済成長と震災の復興、頑張ってもらいましょう。

活動報告

- 4月15日 平成24年度定期総会開催 福祉センター 会員8名参加。
- 5月20日 第1回慰問治療、福光園ケアサポート、関生園 会員協力者11名。
- 7月29日 第2回慰問治療、関生園アネックス 会員協力者9名。
- 9月23日 第31回一関国際ハーフマラソン大会マッサージ奉仕（鍼灸マッサージの日記念事業、県との共催）協力者県本部2名、遠野師会2名、一関師会9名、計13名。

その他、県の事業、生涯研修会等への積極的な参加を、会員に呼びかけております。

大船渡師会報告

師会長 古水健吾

4月 1日 大船渡師会 24年度総会 カメリアホール 10名参加。

4月 29日 県師会総会に出席 労働福祉会館（盛岡）1名。

9月 2日 マッサージ奉仕 富岡荘 6名参加で37名施術。

12月 9日 忘年会 わいわい(陸前高田) 10名参加。

今年度の大船渡師会の活動は、昨年できなかった総会、施設でのマッサージ奉仕を行うことができ、会としても少しずつ復興してきたように思います。

ただ、行事開催にあたっては、鉄道、バスなどの交通事情が悪いため、移動の際ボランティアのみなさんの協力を得ながらという状況があります。

今後も行事の持ち方については、検討して行く必要があります。

復興に向けては、まだ厳しい現状ですが、今後もみんなで前向きにがんばって行きたいと思います。

遠野師会報告

師会長 朝橋正美

今年は、9月23日一関国際ハーフマラソン大会のボランティアマッサージに、遠野師会から2名（深澤豊、朝橋正美）が参加し応援してきました。

競技の方は、5km、10km、ハーフとありまして、始めは暇でしたが10kmの選手がゴールしてから忙しくなって、ちょっと大変でした。選手の参加者は約2500名で、そのうちマッサージの施術を受けたのは約100人と聞いています。

私もランナーですので、試合の後の疲労の回復の具合はマッサージをやった、やらないでは全然違います。マッサージを受けた選手の皆さんも、喜んで帰ったと思います。

2014年には、アジアマスターズ陸上競技大会が、北上市で開催されることになりました。その時には、ボランティアマッサージに行こうと考えています。

宮古師会報告

師会長 上館 宏

2012年も特段変わった活動はございませんでした。日々の業務の中で多種多様の患者さんに鍼灸按摩マッサージの良さを体感して戴けるよう努めたつもりです。

被災され、仮設住宅での生活を余儀なくされている患者さんもいらっしゃいますが、岩泉に限らずなかなか復興が遅々としている現状を伺う度に、日本という国に対して何とも言い様のない想いでおります。私達の携わっている業種に対しての、国や一般の国民の方の認識のされ方ともオーバーラップしました。

個人的には、自由診療が100%近くで、相応の体力、臨床技術が必然的に求められて、自身のスキルアップにはなってきたと考えますが、近年の経済状況下では保険診療も鍼灸按摩マッサージで対応出来るとアピールすることが、無資格者無免許者との差別化、ビジネス化している整骨院チェーン店との比較が患者さんに明確に伝わると考えました。

しかし、岩手県の地域性でしょうか？整形外科学会で鍼灸按摩マッサージの同意書への記入は控えるよう周知徹底されている事や、正当な該当する適応疾患であっても鍼灸按摩マッサージは効果が疑問、とまで患者さんにおっしゃるドクターまでいる現実も経験しました。

私たち鍼灸按摩マッサージ師を取り巻く環境は、決して容易ではありません。毎日毎日が勝負です。お一人お一人の患者さんに誠心誠意の治療をさせて頂き、認知、信頼される事が自分自身、鍼灸按摩マッサージ師会にとっての一番の広告宣伝であると、心に常に留めて2013年も頑張ります。皆様、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

編集後記

広報部長 松下優子

初めての広報担当ということで、手探り状態での歩みでしたが、理事長、前任者の協力を頂きながら、なんとか発刊の運びとなりました。

国も新体制でのスタートということで、アベノミクスという特効薬を注入すること、それが良き潤滑油となり、私達にも潤いを与えて欲しいものです。又、当会も平成25年度は一般社団法人への移行の年です。会員自らも進化し、一丸となって、共に飛躍の年としましょう。

奥付

社団法人 岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会

平成24年度 会報 第45号

平成25年3月17日発行

発行人 理事長 佐々木 実

〒028-7401 八幡平市西根寺田第13地割108番地

電話 0195-77-2057

編集責任 広報部長 松下優子

〒020-0172 滝沢村鶴飼字向新田7番地227

電話 019-687-2405

事務所(事務局) 理事長 佐々木 実

〒028-7401 八幡平市西根寺田第13地割108番地

電話 0195-77-2057

郵便振替 岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会 02360-9-19833

印刷所 有限会社 浜印刷

〒020-0172 岩手県岩手郡滝沢村鶴飼字洞畑56-29

電話 019-684-3569

新商品

ダイオード マッサージャー

(補瀉絶縁型・ダイオード入り)

《痛み・こり・筋肉痛など》

【特徴】 ☆コンパクトでシンプルな皮膚刺激療法。

☆東洋医学的気血運行の平衡作用は、極性を有する物質に左右される。特に、微少電流の過負荷に対応するダイオードの特性は、補瀉的調整の導入に欠かせない用具である。

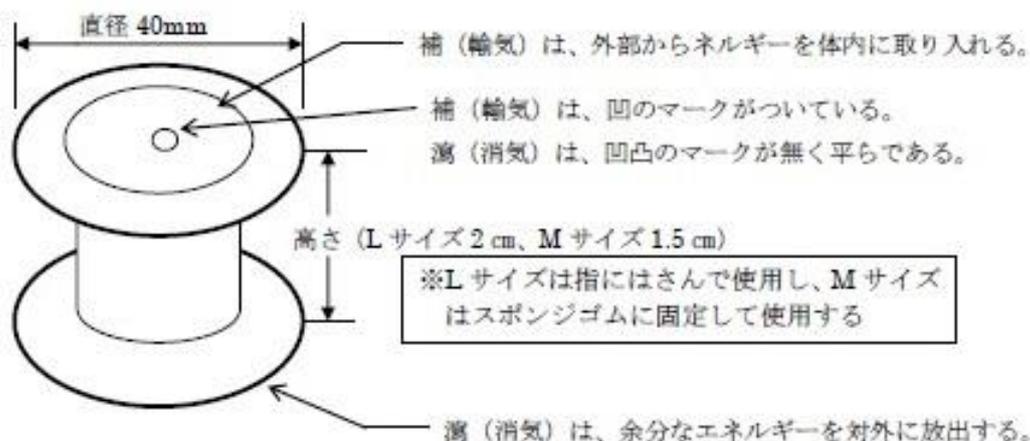
☆マジックベルト等で固定しながら他の治療も併用できる。

☆人差し指と中指に挟んで、ツボ・経絡・リンパに沿って刺激をすることにより、更に効果が得られる。又、1~2日後に効用が出てくることもあります。

《注意》 補瀉を反対にした場合、痛みを起こすこともあります。

【例】 瀉（消気）で10~15分固定して痛みが増した時は、補（輸気）側にかえて使用すること。

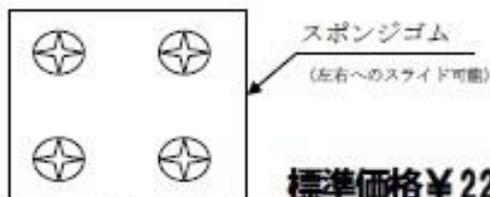
斜面図（実物大）



《注意》 以下に該当する方は使用出来ません。◎金属アレルギー体質の方

◎心臓の弱い方・ペースメーカーを装着している方

◎体内に金属板（ボルト）埋め込みの方



スポンジゴムに2~6個取り付けて患部に固定して使用できる。

標準価格 ¥22,575

(本体価格 ¥21,500)

【お問い合わせ】 物理器械各種・鍼灸用具一式

〒034-0084 青森県十和田市西四番町 8-39

有限会社 ヤマキン医療器

TEL 0176-25-3666

TEL・FAX 兼 0176-23-9138

